2023 年度(第13 期)
事業計画書

特定非営利活動法人アスイク

トピックス・予算

■　今年度の主なトピック

・　**子どもの学習・生活支援事業の拡充**
　➢　仙台市にて４ヶ所、宮城県町村部にて４ヶ所の教室を増設
　➢　仙台市にてオンライン学習支援をメニューに追加

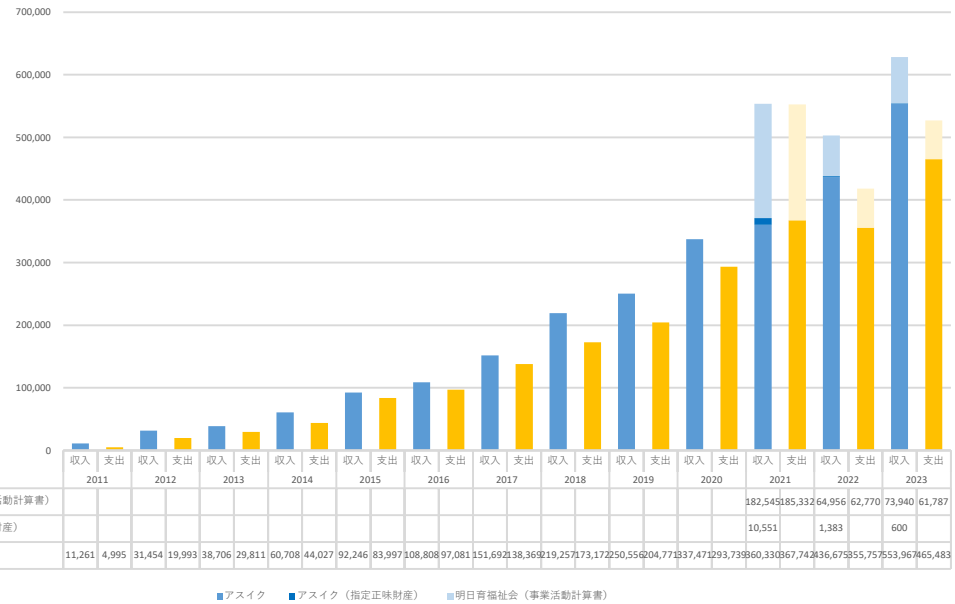
・　**ふれあい広場サテライトの拡充**
　➢　３ヶ所の開催日数を週２日から４日開設に拡充

・　**白石市子ども第三の居場所事業の開始**
　➢　白石市、日本財団と協働で子ども第三の居場所事業（常設ケアモデル）を2024 年当初に開設

・　**生活保護世帯の高校中退支援に向けた共同研究**
　➢　仙台市泉区保護課、東北大学と協働で、生活保護データの分析等を元にした支援プログラムを検討

・　**本部事務所の拡充**
　➢　人員の拡充により、本部事務所を1階部分にも拡充

■　予算計画（概要）



	2011 収入	2011 支出	2012 収入	2012 支出	2013 収入	2013 支出	2014 収入	2014 支出	2015 収入	2015 支出	2016 収入	2016 支出	2017 収入	2017 支出	2018 収入	2018 支出	2019 収入	2019 支出	2020 収入	2020 支出	2021 収入	2021 支出	2022 収入	2022 支出	2023 収入	2023 支出
明日育福祉会（事業活動計算書）																					182,545	185,332	64,956	62,770	73,940	61,787
アスイク（指定正味財産）																					10,551		1,383		600	
アスイク	11,261	4,995	31,454	19,993	38,706	29,811	60,708	44,027	92,246	83,997	108,808	97,081	151,692	138,369	219,257	173,172	250,556	204,771	337,471	293,739	360,330	367,742	436,675	355,757	553,967	465,483

当法人のミッション・ビジョン等

NPO法人 アスイク

Mission 私たちの役割

子ども・若者と社会をつなぎ、共助・公助を増やしつづける。

Vision 目指す社会像

どんな困難にぶつかっても、自分の人生を好きになれる社会。

Way 私たちの行動原則

- **対等なパートナーシップ**
  市民、企業、行政などマルチステークホルダーとの協働を基盤とする。行政に対しては下請けではなく当事者のニーズを代弁する触媒となり、市民や企業に対しては社会課題への参画、気づきの場を提供する。
- **動きながらつくりつづける**
  社会の揺らぎの中から求められることに素早く取り組み、気づきや出会いを通して、必要とされるもの、それまで無かったものを生み出していく。
- **当事者たちから学ぶ**
  当事者の視点から今起きていることを学ぶ。パターナリズムに陥らず、一人ひとりの視点から最善解を一緒に考えていく。

Values 私たちの価値観

受 容

自分自身も相手のことも、あるがままに受けとめる。

共に考える

一緒に考えることそのものに、意味がある。

挑 戦

必要だと感じたことは、一歩踏みだして行動してみる。

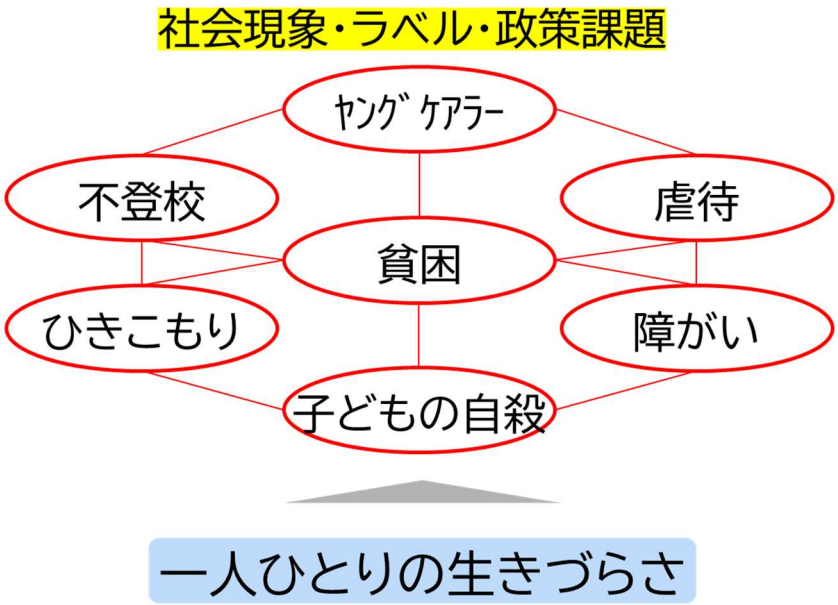
楽 し む

相手に楽しんでもらうために、自分たちが楽しいと感じることを大事にする。

NPO法人 アスイク

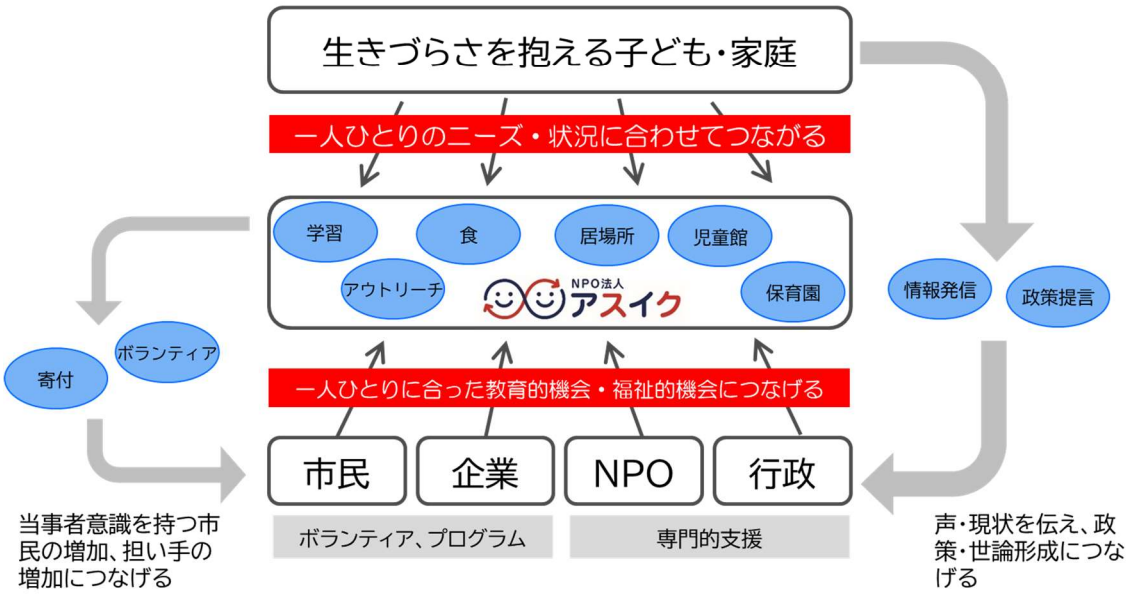
社会課題：子ども・若者が抱える多様な生きづらさ

それぞれが相互に結び付きあう子ども・若者の多様な生きづらさに対して、
一人ひとりの視点を大事にして向き合っている。



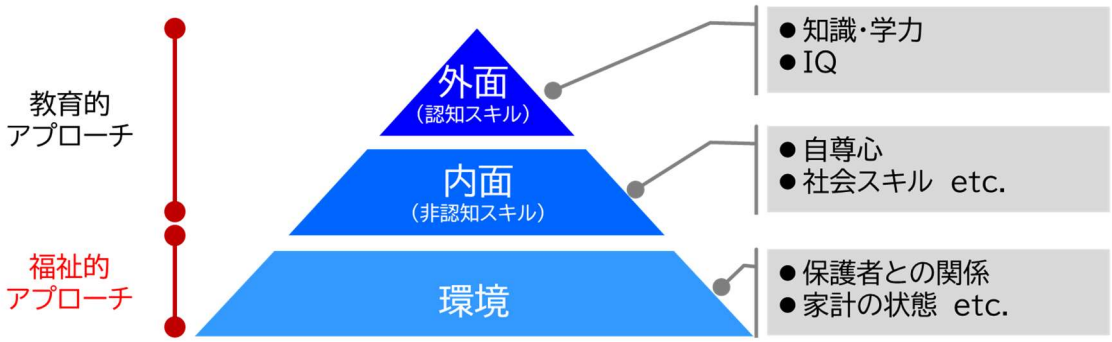
課題へのアプローチ

生きづらさを抱える子ども・家庭を、さまざまな事業（入口）を通して社会資源と結びつけ、教育的機会、福祉的機会を提供すると同時に、社会の当事者意識を醸成することで社会資源（公助・共助）を増やしていく。



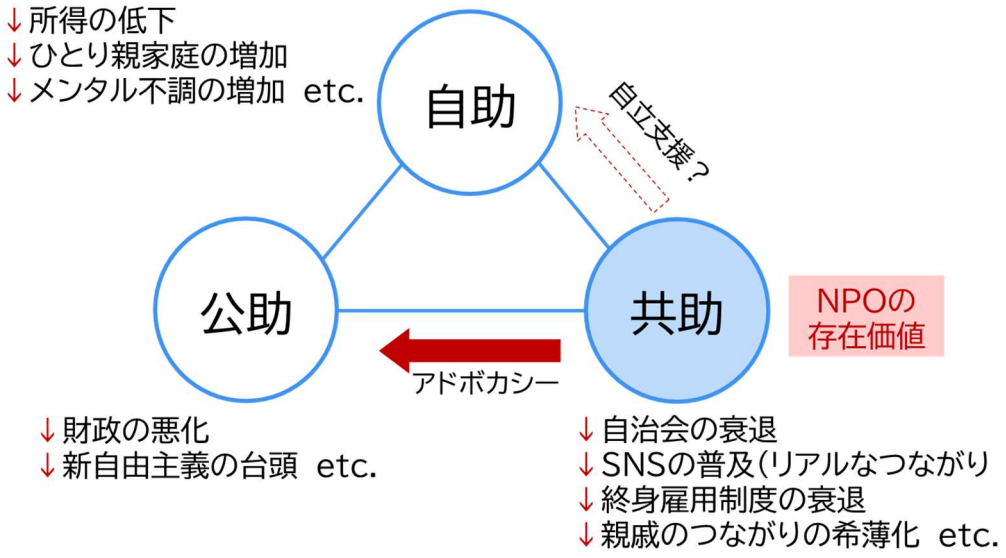
子どもへのアプローチ

- 子ども自身が本来もっている力を最大限に引き出す教育的なアプローチだけでなく、健やかに生きていく上で環境要因を調整する福祉的なアプローチが必要。



（参考）課題認識：家庭の養育力の低下、共助・公助の低下

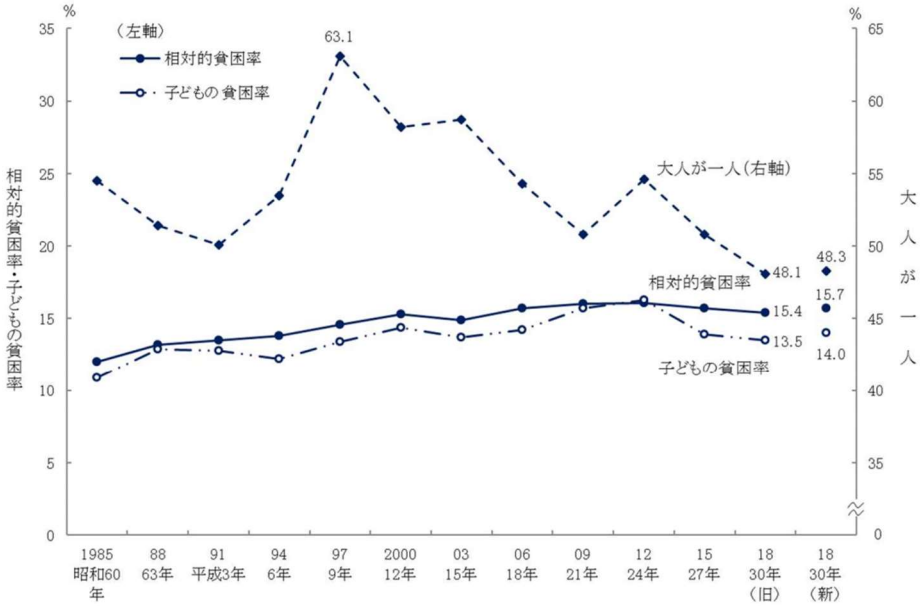
- 子どもが抱える問題の背景には、家庭の養育に関する問題があることが多い。
- 自助が弱まっているが、それを支える共助・公助も弱まっている。



こども・若者を取り巻くの状況

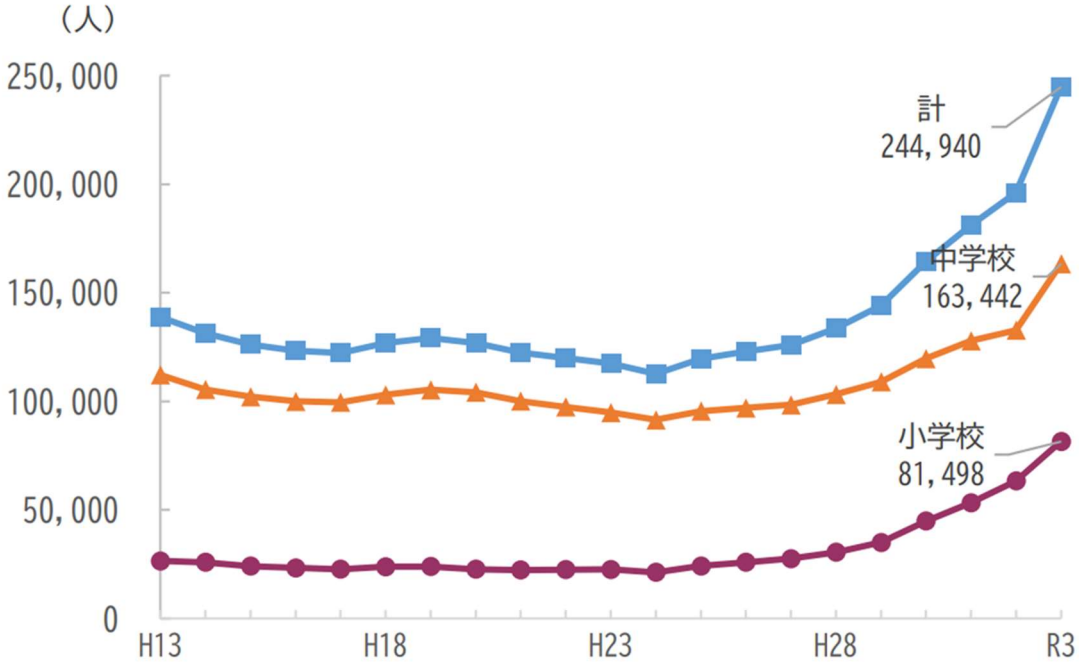
■　子どもの貧困率（「2019 年国民生活基礎調査の概況」厚生労働省）

図 13　貧困率の年次推移



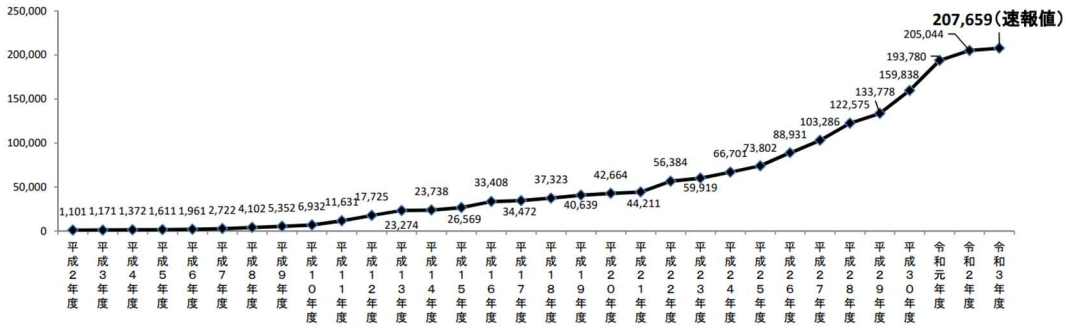
注：1)　1994（平成６）年の数値は、兵庫県を除いたものである。
2)　2015（平成27）年の数値は、熊本県を除いたものである。
3)　2018（平成30）年の「新基準」は、2015年に改定されたＯＥＣＤの所得定義の新たな基準で、従来の可処分所得から更に「自動車税・軽自動車税・自動車重量税」、「企業年金の掛金」及び「仕送り額」を差し引いたものである。
4)　貧困率は、ＯＥＣＤの作成基準に基づいて算出している。
5)　大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者をいい、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。
6)　等価可処分所得金額不詳の世帯員は除く。

■　不登校児童生徒数の推移
（令和３年度児童生徒の問題行動･不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）



■　児童虐待相談対応件数

（令和３年度児童相談所による児童虐待相談対応件数　厚生労働省）

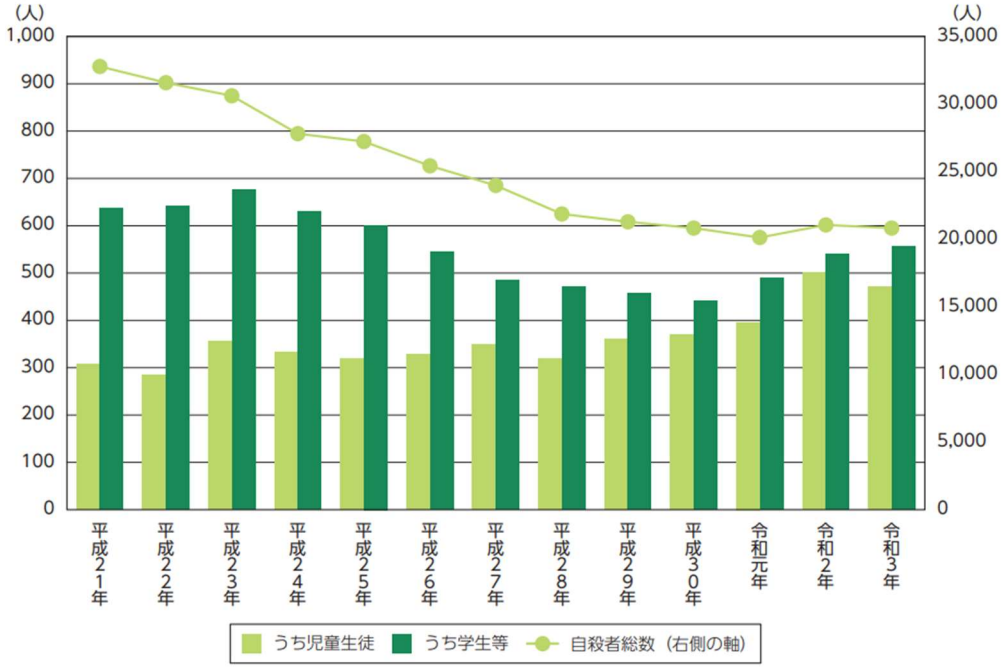


年　度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（速報値）
件　数	44,211	注 56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780	205,044	207,659
対前年度比	+3.6%	－	－	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%	+5.8%	+1.3%

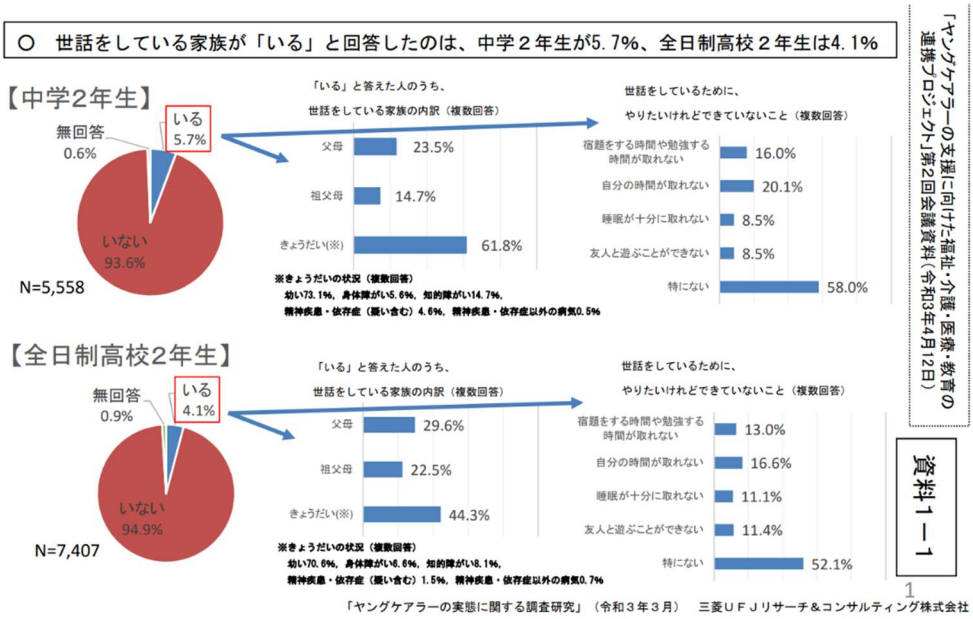
（注）平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

■　児童生徒及び学生等の自殺者数の推移

（警視庁「自殺統計」より自殺対策推進センター作成）



■　ヤングケアラー


○　世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学２年生が5.7%、全日制高校２年生は4.1%
【中学2年生】
無回答 0.6%
いる 5.7%
いない 93.6%
N=5,558
「いる」と答えた人のうち、世話をしている家族の内訳（複数回答）
父母 23.5%
祖父母 14.7%
きょうだい(※) 61.8%
※きょうだいの状況（複数回答）
幼い73.1%，身体障がい5.6%，知的障がい14.7%，
精神疾患・依存症（疑い含む）4.6%，精神疾患・依存症以外の病気0.5%
世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）
宿題をする時間や勉強する時間が取れない 16.0%
自分の時間が取れない 20.1%
睡眠が十分に取れない 8.5%
友人と遊ぶことができない 8.5%
特にない 58.0%
【全日制高校2年生】
無回答 0.9%
いる 4.1%
いない 94.9%
N=7,407
「いる」と答えた人のうち、世話をしている家族の内訳（複数回答）
父母 29.6%
祖父母 22.5%
きょうだい(※) 44.3%
※きょうだいの状況（複数回答）
幼い70.6%，身体障がい6.6%，知的障がい8.1%，
精神疾患・依存症（疑い含む）1.5%，精神疾患・依存症以外の病気0.7%
世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）
宿題をする時間や勉強する時間が取れない 13.0%
自分の時間が取れない 16.6%
睡眠が十分に取れない 11.1%
友人と遊ぶことができない 11.4%
特にない 52.1%
「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクト」第2回会議資料（令和3年4月12日）
資料１－１
1
「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和３年３月）　三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社

各事業の計画

（事業インデックス） ※★は新規事業

1. 仙台市学習・生活サポート事業
2. 仙台市中途退学未然防止等事業
3. 宮城県子どもの学習・生活支援事業
4. 岩沼市子どもの学習・生活支援事業
5. 岩沼市ひきこもり支援ステーション事業（ハッチいわぬま）
6. 岩沼市子ども第三の居場所事業（いわぬまきち）
7. 白石市子どもの学習・生活支援事業
8. 白石市子ども第三の居場所事業（しろいしきち） ★
9. 仙台市支援対象児童等見守り強化事業
10. 涌谷町支援対象児童等見守り強化事業（わくデリ）
11. フードバンクプラアス
12. 仙台市ふれあい広場サテライト
13. たがじょう子どもの心のケアハウス
14. 多賀城こども食堂
15. 仙台市ヤングケアラーピアサポート・オンラインサロン事業
16. アスイク保育園宮城野通駅前
17. アスイク保育園薬師堂前
18. アスイク保育園中田町
19. 仙台市荒井児童館
20. 仙台市市民協働事業提案制度 ★
21. キントーン導入プロジェクト

事業名	1.　仙台市学習・生活サポート事業
事業目的	・　子どもの貧困の連鎖の解消
事業内容	・　学習支援、体験の機会づくり、相談支援 ・　原則生活保護もしくは児童扶養手当全部支給の中学生
今期の主要目標 （定量・定性）	■　別紙事業目標 ■　サブ意識調査：領域平均各項目 4.0 以上
備考	取り組みテーマ：体験プログラムの充実による休止率改善（サブサポの協力の拡大）

事業目標

事業名：仙台市学習・生活サポート事業

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	教室運営（量的側面）	拠点開設数	何ヶ所の拠点（教室）を開設したか	----	24ヶ所
		参加者数	何人の対象者が登録したか	参加者リストへの記録	300人
		リファー件数	何人の対象者が関係機関からのリファーにより参加したか	参加者リストへの記録	30人
		開催回数	延べ何回（日）の活動を行なったか	記録表による集計	2188回
	教室運営（質的側面）	つながり率	登録家庭の内、教室参加もしくは訪問支援、保護者支援等でつながりを維持できている家庭の割合はどの程度か	記録表による集計	100%
		延参加者数	延べ何人の登録者が参加したか	記録表による集計	7000人
		休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	25%
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	2.5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	300人
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	6プログラム
		プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	100人
	保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	800件
		他機関との連携件数	関係機関と延何件の連携を行なったか	記録表による集計	178件
アウトカム	学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数（中学3年生のみ）	100%
		基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結	英語：10点 数学：10点
	自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート（肯定回答割合）	70%
		努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		70%
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		70%
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		70%
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		70%
	文化資本	進学への意欲	参加したことで、高校に進学しようという意識が生まれたか		70%
	健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		70%
		生活習慣の改善	参加したことで、規則正しい生活ができるようになったか		70%
	社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		70%
	ロールモデル	ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		70%
	保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者：70% 保護者：70%
		将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか	保護者アンケート	70%
	保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか		70%
	満足度	存在の受容	あるがままに受容されたと感じているか	参加者アンケート	90%
		活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者：90% 保護者：90%
		サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか		参加者：90% 保護者：90%

事業名	2.　仙台市中途退学未然防止等事業
事業目的	・　子どもの貧困の連鎖の解消 ・　中学生対象の学習・生活支援事業のアフターフォロー
事業内容	・　居場所づくり、学習支援、体験の機会づくり、相談支援、訪問支援 ・　原則生活保護もしくは児童扶養手当全部支給の中学生
今期の主要目標 （定量・定性）	■　別紙事業目標 ■　サブ意識調査：領域平均各項目 4.0 以上 ■　まなびサポート卒業生の登録率：70%
備考	

● 仙台市中途退学未然防止等事業　事業目標

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	教室運営（量的側面）	拠点開設数	何ヶ所の拠点（教室）を開設したか	---	3ヶ所
		参加者数（拠点）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	120人
		参加者数（訪問支援）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	12人
		サポート参加延人数	延べ何人がサポートに参加したか	記録表による集計	2600人
	教室運営（質的側面）	途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	2.5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	40人
		ボランティア参加時間	延べ何時間のボランティアが参加したか	記録表による集計	1,300時間
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	6プログラム
		プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	60人
	保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	276件
		他機関との連携件数	関係機関と延何件の連携を行なったか	記録表による集計	61件
アウトカム	学力・学歴	高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか　※学習生活サポート事業卒業生のみ	中退者数/登録者数（高校年代）	3%
		高校中退者の社会接続率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか　※当事業への参加を含む	社会資源へのつなぎ数/中退者数	100%

事業名	3.　宮城県子どもの学習・生活支援事業
事業目的	・　子どもの貧困の連鎖の解消
事業内容	・　学習支援（対面・オンライン）、体験の機会づくり、相談支援、訪問支援 ・　生活保護、就学援助、児童扶養手当支給等に該当する小学４年生～20 歳程度
今期の主要目標 （定量・定性）	■　別紙事業目標 ■　サブ意識調査：領域平均各項目 4.0 以上
備考	

事業目標

事業名：宮城県学習・生活支援事業

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	教室運営（量的側面）	拠点開設数	何ヶ所の拠点（教室）を開設したか	---	15ヶ所
		参加者数（拠点）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	240人
		リファー件数	何人の対象者が関係機関からのリファーにより参加したか	参加者リストへの記録	20人
		参加者数（訪問支援）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	10人
		開催回数	延べ何回（日）の活動を行なったか	記録表による集計	400回
		つながり率	登録家庭の内、教室参加もしくは訪問支援、保護者支援等でつながりを維持できている家庭の割合はどの程度か	記録表による集計	100%
		延参加者数	延べ何人の登録者が参加したか	記録表による集計	2400人
		休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	25%
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	2.5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	33人
		ボランティア参加時間	延べ何時間のボランティアが参加したか	記録表による集計	1,300時間
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	6プログラム
		プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	90人
	保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	455件
		他機関との連携件数	関係機関と延何件の連携を行なったか	記録表による集計	101件
アウトカム	学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数（中学3年生のみ）	100%
		高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか	中退者数/登録者数（高校年代）	3%
		高校中退者の社会接続率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか	社会資源へのつなぎ数/中退者数	100%
		基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結	英語：10点 数学：10点
	自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート（肯定回答割合）	70%
		努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		70%
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		70%
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		70%
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		70%
	文化資本	進学への意欲	参加したことで、高校に進学しようという意識が生まれたか		70%
	健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		70%
		生活習慣の改善	参加したことで、規則正しい生活ができるようになったか		70%
	社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		70%
	ロールモデル	ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		70%
	保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか	参加者アンケート	70%
				保護者アンケート	70%
		将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか	保護者アンケート	70%
	保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか		70%
	満足度	存在の受容	あるがままに受容されたと感じているか	参加者アンケート	90%
		活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート	90%
				保護者アンケート	90%
		サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか	参加者アンケート	90%
				保護者アンケート	90%

事業名	4.　岩沼市子どもの学習・生活支援事業
事業目的	子どもの貧困の連鎖の解消
事業内容	・　学習支援、体験の機会づくり、相談支援、訪問支援 ・　生活保護、就学援助、児童扶養手当支給等に該当する小学４年生～20 歳程度
今期の主要目標 （定量・定性）	■　別紙事業目標 ■　サブ意識調査：領域平均各項目 4.0 以上
備考	

事業目標

事業名：岩沼市学習・生活支援事業

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	教室運営（量的側面）	拠点開設数	何ヶ所の拠点（教室）を開設したか	---	1ヶ所
		参加者数（拠点）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	50人
		リファー件数	何人の対象者が関係機関からのリファーにより参加したか	参加者リストへの記録	5人
		参加者数（訪問支援）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	2人
		開催回数	延べ何回（日）の活動を行なったか	記録表による集計	200回
		つながり率	登録家庭の内、教室参加もしくは訪問支援、保護者支援等でつながりを維持できている家庭の割合はどの程度か	記録表による集計	100%
		延参加者数	延べ何人の登録者が参加したか	記録表による集計	840人
		休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	25%
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	2.5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	12人
		ボランティア参加時間	延べ何時間のボランティアが参加したか	記録表による集計	400時間
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	6プログラム
		プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	25人
	保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	115件
		他機関との連携件数	関係機関と延何件の連携を行なったか	記録表による集計	26件
アウトカム	学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数（中学3年生のみ）	100%
		高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか	中退者数/登録者数（高校年代）	3%
		高校中退者の社会接続率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか	社会資源へのつなぎ数/中退者数	100%
		基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結	英語：10点 数学：10点
	自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート（肯定回答割合）	70%
		努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		70%
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		70%
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		70%
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		70%
	文化資本	進学への意欲	参加したことで、高校に進学しようという意識が生まれたか		70%
	健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		70%
		生活習慣の改善	参加したことで、規則正しい生活ができるようになったか		70%
	社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		70%
	ロールモデル	ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		70%
	保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか	参加者アンケート	70%
				保護者アンケート	70%
		将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか	保護者アンケート	70%
	保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか		70%
	満足度	存在の受容	あるがままに受容されたと感じているか	参加者アンケート	90%
		活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート	90%
				保護者アンケート	90%
		サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか	参加者アンケート	90%
				保護者アンケート	90%

事業名	5.　岩沼市ひきこもり支援ステーション事業（ハッチいわぬま）
事業目的	ひきこもり状態にある方の自立支援
事業内容	・　個別相談、家族会、アウトリーチ、居場所づくり、体験の機会づくり等 ・　対象：岩沼市に居住するひきこもり状態にある本人と家族
今期の主要目標 （定量・定性）	■　利用者数：60 人 ■　相談件数；150 件 ■　アウトリーチ件数：延 40 件 ■　家族のつどい参加人数：延 30 人 ■　居場所参加者数：延 650 人 ■　イベント参加者数：延 100 人 ■　社会接続：延 40 人
備考	

事業名	6.　岩沼市子ども第三の居場所事業（いわぬまきち）
事業目的	貧困等により養育困難な状態にある子どもたちや家庭を社会ではぐくむ。
事業内容	・　対象：家庭や自身に課題を抱えた小学生等 ・　居場所での学習・遊び・生活の支援、体験の機会づくり、家庭への相談支援
今期の主要目標 （定量・定性）	■　利用者数：15 名以上 ■　体験プログラム：12 回以上 ■　ボランティア：10 名以上
備考	

事業名	7.　白石市子どもの学習・生活支援事業
事業目的	子どもの貧困の連鎖の解消
事業内容	・　学習支援、体験の機会づくり、相談支援、訪問支援 ・　生活保護、就学援助、児童扶養手当支給等に該当する小学４年生～20 歳程度
今期の主要目標 （定量・定性）	■　別紙事業目標 ■　サブ意識調査：領域平均各項目 4.0 以上
備考	

事業目標

事業名：白石市学習・生活支援事業

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	教室運営（量的側面）	拠点開設数	何ヶ所の拠点（教室）を開設したか	---	1ヶ所
		参加者数（拠点）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	20人
		リファー件数	何人の対象者が関係機関からのリファーにより参加したか	参加者リストへの記録	2人
		参加者数（訪問支援）	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	4人
		開催回数	延べ何回（日）の活動を行なったか	記録表による集計	100回
		つながり率	登録家庭の内、教室参加もしくは訪問支援、保護者支援等でつながりを維持できている家庭の割合はどの程度か	記録表による集計	100%
		延参加者数	延べ何人の登録者が参加したか	記録表による集計	500人
		休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	25%
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	2.5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	6人
		ボランティア参加時間	延べ何時間のボランティアが参加したか	記録表による集計	200時間
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	6プログラム
		プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	10人
	保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	46件
		他機関との連携件数	関係機関と延何件の連携を行なったか	記録表による集計	10件
アウトカム	学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数（中学3年生のみ）	100%
		高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか	中退者数/登録者数（高校年代）	3%
		高校中退者の社会接続率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか	社会資源へのつなぎ数/中退者数	100%
		基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結	英語：10点 数学：10点
	自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート（肯定回答割合）	70%
		努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		70%
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		70%
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		70%
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		70%
	文化資本	進学への意欲	参加したことで、高校に進学しようという意識が生まれたか		70%
	健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		70%
		生活習慣の改善	参加したことで、規則正しい生活ができるようになったか		70%
	社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		70%
	ロールモデル	ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		70%
	保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか	参加者アンケート	70%
				保護者アンケート	70%
		将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか	保護者アンケート	70%
	保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか		70%
	満足度	存在の受容	あるがままに受容されたと感じているか	参加者アンケート	90%
		活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート	90%
				保護者アンケート	90%
		サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか	参加者アンケート	90%
				保護者アンケート	90%

事業名	8.　白石市子ども第三の居場所事業(しろいしきち)
事業目的	貧困等により養育困難な状態にある子どもたちや家庭を社会ではぐくむ。
事業内容	・　対象:家庭や自身に課題を抱えた小学生等 ・　居場所での学習・遊び・生活の支援、体験の機会づくり、家庭への相談支援
今期の主要目標 (定量・定性)	■　2 月頃までの開所 ■　利用者数:10 名以上 ■　体験プログラム:1 回以上
備考	

事業名	9.　仙台市支援対象児童等見守り強化事業
事業目的	食品を活用して要保護児童等への訪問支援をすることで、行政ではつながれない、対応しきれない家庭の見守りを行う。
事業内容	・　対象：太白区、青葉区、泉区に居住する未就学児～高校生年代の子どものいる家庭 ・　定期的な食品提供をキッカケにした訪問支援による子どもの見守り、保護者の相談支援等
今期の主要目標（定量・定性）	■　別紙事業目標
備考	

事業目標

事業名：仙台市支援対象児童等見守り強化事業（太白区、青葉区・泉区）

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	量的要素	利用者実数	当事業を利用した世帯数、児童数	記録表による集計	----
		延訪問支援数	当事業により訪問を行った延件数	記録表による集計	500件
アウトカム	自治体の視点	発見	養育上の課題を抱えていながら、周囲から気づかれていない家庭の発見効果がどの程度あったか	事例記述、該当事例のカウント	----
		情報収集	関係機関が把握していない生活状況等の情報を把握する効果がどの程度あったか	事例記述、該当事例のカウント	----
		安全確認	虐待や自殺企図等のリスクの高い世帯の見守り効果がどの程度あったか	事例記述、該当事例のカウント	----
		つなぎ	様々な支援を必要としながらも、何らかの事情によってつながっていない家庭に対する支援制度・機関へのつなぎの効果がどの程度あったか	事例記述、該当事例のカウント	----
		ヤングケアラー	ヤングケアラーに該当する子どもの発見や見守りの効果はどの程度あったか	事例記述、該当事例のカウント	----
	保護者の視点	経済的負担の軽減	家計のやりくりが楽になったか	保護者アンケート（肯定回答割合）	70%
		精神的負担の軽減	子育ての悩みが軽くなったか	保護者アンケート（肯定回答割合）	70%
		生活上の課題の改善	生活の問題が軽くなったか	保護者アンケート（肯定回答割合）	70%
		必要な社会資源へのつなぎ	自分が必要とする支援制度や相談機関などにつながることができたか	保護者アンケート（肯定回答割合）	70%
	満足度	支援員の対応	支援員はマナー・礼儀がきちんとしていたか	保護者アンケート（肯定回答割合）	90%
		支援員の対応	支援員は保護者の悩みを受容していたか	保護者アンケート（肯定回答割合）	90%
		継続希望	この事業を続ける場合継続して利用したいと思うか	保護者アンケート（肯定回答割合）	90%

事業名	10. 涌谷町支援対象児童等見守り強化事業（わくデリ）
事業目的	食品を活用して要保護児童等への訪問支援をすることで、行政ではつながれない、対応しきれない家庭の見守りを行う。
事業内容	・　対象：涌谷町に居住する未就学児～高校生年代の子どものいる家庭 ・　定期的な食品提供をキッカケにした訪問支援による子どもの見守り、保護者の相談支援等
今期の主要目標（定量・定性）	■　別紙事業目標
備考	

事業目標

事業名：涌谷町支援対象児童等見守り強化事業

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	量的要素	利用者実数	当事業を利用した世帯数、児童数	記録表による集計	15世帯
アウトカム	生活の支援	経済的負担の軽減	家計のやりくりが楽になったか	保護者アンケート（肯定回答割合）	70%
		生活上の課題の改善	必要な情報を得ることができたか	保護者アンケート（肯定回答割合）	70%
		食品の内容	食品は役立つ内容だったか	保護者アンケート（肯定回答割合）	70%
	支援員の対応	支援員の対応	支援員はマナー・礼儀がきちんとしていたか	保護者アンケート（肯定回答割合）	90%
		支援員の対応	支援員は保護者の悩みを受容していたか	保護者アンケート（肯定回答割合）	90%

事業名	11. フードバンクプラアス
事業目的	既存事業の利用者に対して食品の提供を通して訪問等を行うことにより、つながりの再構築や利用者の生活状態の把握などを行う。
事業内容	・　食品、家電等の寄付での受け入れ ・　原則当法人の既存事業の利用者に対する訪問による食品提供及び見守り等支援
今期の主要目標 （定量・定性）	■　支援件数：120 件以上（仙台市内） ■　食品受入件数：90 件以上
備考	

事業名	12. 仙台市ふれあい広場サテライト
事業目的	不登校や中退などで居場所のない子どもたちとつながり、生存保障、発達保障、社会参加を実現する。
事業内容	・ 対象：仙台市内に居住する小学校 5 年生～20 歳程度（仙台市外も参加可能） ・ 3 拠点（東口、泉中央、長町）での居場所の開設、訪問支援、就労支援等
今期の主要目標（定量・定性）	■ 別紙事業目標 ■ 職員意識調査：領域平均各項目 4.0 点以上
備考	取り組みテーマ：フィロソフィー・クレドの浸透（新旧スタッフともに意識できる状態）

事業目標

事業名：ふれあい広場サテライト

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	拠点運営	参加者数	何人の対象者が登録したか	参加者リストへの記録	140人
		アウトリーチ件数	延べ何人に対してアウトリーチを行ったか	参加者リストへの記録	288人
		開催回数	延べ何回（日）の活動を行なったか	記録表による集計	600日
		1日当たり利用者数	1日当たり何人が利用したか	記録表による集計	10人
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	30人
		ボランティア参加時間	延べ何時間のボランティアが参加したか	記録表による集計	1,000時間
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	18件
	保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	400件
アウトカム	生存保障			参加者アンケート（肯定回答割合）	70%
					70%
	発達保障				70%
					70%
					70%
	社会参加				70%
					70%
					70%
					70%
	満足度	存在の受容	あるがままに受容されたと感じているか		90%
		活動への満足度	参加してよかったと感じているか		
		サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか		

年度内に検討

事業名	13. たがじょう子どもの心のケアハウス
事業目的	不登校で居場所のない子どもたちとつながり、生存保障、発達保障、社会参加を実現する。
事業内容	・　対象：多賀城市内に居住する不登校の小中学生 ・　多賀城市内 1 カ所のケアハウス運営、訪問支援、まなび支援教室への支援員派遣（4 中学校）
今期の主要目標（定量・定性）	■　別紙事業目標 ■　職員意識調査：領域平均各項目 4.0 点以上
備考	取り組みテーマ：フィロソフィー・クレドの浸透（新旧スタッフともに意識できる状態）

事業目標

事業名：たがじょう子どもの心のケアハウス

観点	要素	指標	定義	測定方法	目標値
アウトプット	拠点運営	参加者数	何人の対象者が登録したか	参加者リストへの記録	20人
		アウトリーチ件数	延べ何人に対してアウトリーチを行ったか	参加者リストへの記録	48人
		開催回数	延べ何回（日）の活動を行なったか	記録表による集計	230日
		1日当たり利用者数	1日当たり何人が利用したか	記録表による集計	8人
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	10人
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	18件
	保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	200件
アウトカム	生存保障			参加者アンケート（肯定回答割合）	70%
					70%
	発達保障				70%
					70%
					70%
	社会参加				70%
					70%
					70%
					70%
	満足度	存在の受容	あるがままに受容されたと感じているか		90%
		活動への満足度	参加してよかったと感じているか		
		サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか		

年度内に検討

事業名	14. 多賀城こども食堂
事業目的	食事を通して生活に困窮する子育て家庭とつながり、ピアサポートや必要な支援へのつなぎを行う。
事業内容	・ 調理活動を含めた食事提供、保護者同士のコミュニケーションの場づくり（月 2 回、多賀城駅付近 1 ヶ所での開催） ・ 対象：ひとり親家庭や生活保護家庭などの生活困窮世帯の子ども、保護者
今期の主要目標 （定量・定性）	■ 開催回数 24 回以上 ■ 1 回あたり利用者数：10 人以上 ■ ボランティア参加時間：100 時間以上
備考	

事業名	15. 仙台市ヤングケアラーピアサポート・オンラインサロン事業
事業目的	ヤングケアラーの相談支援体制の構築、気軽に相談できる場をつくる。
事業内容	支援連絡会の運営、ピアサポーターの発掘育成、オンラインサロンの開催（Twitter 相談窓口）
今期の主要目標 （定量・定性）	■ 支援連絡会の運営：2 回 ■ ピアサポーターの発掘・育成：10 人 ■ 学校等へのアウトリーチ：セミナー（教員・児童）8 校・校内サロン 3 校 ■ ケースワーク：30 件 ■ オンライン（対面）サロン：2 回 ■ Twitter 相談：5 件 ■ Twitter・ウェブサイト情報発信：週 1 回程度
備考	

<table>
<tr><td>事業名</td><td>16. アスイク保育園宮城野通駅前</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td>
<table>
<tr><td>保育理念</td><td>〇多様な関係性の中で、子どもを育む。
〇子どもの最善の利益を尊重し、改善し続ける。
〇子どもだけではなく、家庭も支える。</td></tr>
<tr><td>保育方針</td><td>〇一律的なかかわりではなく、発達過程に応じた個別対応をします。
〇子どもの安全・快適な環境づくりに努めます。
〇子どもをありのままに受容し、自尊心の醸成に努めます。
〇様々な人とのかかわりの中で、子どもの社会性を育みます。
〇様々な物事への興味、感受性、表現力を育みます。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>企業主導型保育園(定員 19 名)</td></tr>
<tr><td>今期の主要目標
(定量・定性)</td><td>■ 登録園児数:19 名
■ 職員意識調査:領域平均各項目 4.0 点以上
■ 利用者満足度調査:領域平均各項目 4.0 点以上</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>取り組みテーマ:保育リーダーの育成(理念理解、保護者支援、ローキャリアの育成)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事業名</td><td>17. アスイク保育園薬師堂前</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td>
<table>
<tr><td>保育理念</td><td>〇多様な関係性の中で、子どもを育む。
〇子どもの最善の利益を尊重し、改善し続ける。
〇子どもだけではなく、家庭も支える。</td></tr>
<tr><td>保育方針</td><td>〇一律的なかかわりではなく、発達過程に応じた個別対応をします。
〇子どもの安全・快適な環境づくりに努めます。
〇子どもをありのままに受容し、自尊心の醸成に努めます。
〇様々な人とのかかわりの中で、子どもの社会性を育みます。
〇様々な物事への興味、感受性、表現力を育みます。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>仙台市小規模認可保育事業（定員 12 名）</td></tr>
<tr><td>今期の主要目標
（定量・定性）</td><td>■ 登録園児数：12 名
■ 途中退園：0 名
■ 職員意識調査：領域平均各項目 4.0 点以上
■ 利用者満足度調査：領域平均各項目 4.0 点以上
■ コンピ・バリューの浸透、アスイク・薬師堂園らしい園づくり</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事業名</td><td>18. アスイク保育園中田町</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td>
<table>
<tr><td>保育理念</td><td>〇多様な関係性の中で、子どもを育む。
〇子どもの最善の利益を尊重し、改善し続ける。
〇子どもだけではなく、家庭も支える。</td></tr>
<tr><td>保育方針</td><td>〇一律的なかかわりではなく、発達過程に応じた個別対応をします。
〇子どもの安全・快適な環境づくりに努めます。
〇子どもをありのままに受容し、自尊心の醸成に努めます。
〇様々な人とのかかわりの中で、子どもの社会性を育みます。
〇様々な物事への興味、感受性、表現力を育みます。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>仙台市認可保育所</td></tr>
<tr><td>今期の主要目標
（定量･定性）</td><td>■ 登録園児数：39 名
■ 途中退園：0 名
■ 職員意識調査：領域平均各項目 4.0 点以上
■ 利用者満足度調査：領域平均各項目 4.0 点以上</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>取り組みテーマ：職員同士での情報共有の円滑化</td></tr>
</table>

事業名	19. 仙台市荒井児童館
事業目的	・　社会ではぐくむ ・　地域で見守る ・　特に困難を抱える子どもの受け止めを大切にする
事業内容	放課後児童健全育成事業（児童クラブ）、児童健全育成事業、子育て家庭支援事業、地域交流推進事業
今期の主要目標 （定量・定性）	■　地域連携によるプログラム：12 件以上 ■　ボランティア延べ参加時間：700 時間以上 ■　職員意識調査：領域平均各項目 4.0 点以上 ■　利用者満足度調査：領域平均各項目 4.0 点以上
備考	取り組みテーマ：記録等のデジタル化、こどもの意見反映の仕組み、中高生の利用促進

事業名	20.　　仙台市市民協働事業提案制度
事業目的	効率的・効果的に高等学校等中退率を改善するために，被保護者世帯を中心にデータに基づいた分析を行い，高等学校等中退を予防するために階層化・ハイリスク者を抽出する。
事業内容	・　生活保護世帯の量的・質的分析（東北大学と協働） ・　分析結果をもとにした支援プログラムの検討・試行
今期の主要目標 （定量・定性）	■　泉区生活保護世帯のデータ分析に基づいた中退者の分析レポートの完成 ■　上記分析に基づいた支援プログラムの企画・実施
備考	

事業名	21. キントーン導入プロジェクト
事業目的	顧客管理システムを導入することで、事務作業の効率化、支援情報等の検索性の向上、事業間での情報共有の円滑化を実現する。
事業内容	外部アドバイザーの支援による kintone の導入・改善
今期の主要目標 （定量・定性）	■　学習・生活支援事業での導入完了（モニタリング・オンライン・月次シート自動転記） ■　その他事業での導入完了
備考	